

## 序

見次直雄先生には、いよいよ古稀の寿齡を迎えられ、本春3月をもって永年にわたる関西大学の講壇を退かれることになりました。本号は先生をお送りする惜別の記念号であります。

見次先生は、人も知る、生粋の大阪ご出身で、本学ドイツ文学科創設以来、今は亡き上道直夫、福本喜之助両教授の下で、ひたすら学科の発展のためご尽瘁の日々を重ねてこられた貴重な歴史の担い手であります。私たちは例えば、伝統の「爲春会」旅行にて皆勤賞の表彰を受けられたことでも知られるように、先生の稀にみる精励恪勤のお仕事ぶり、またご専攻の「ピーダーマイヤー」文学にまことに相応しい温雅謙抑のお人柄とに、つねに心から敬仰と感謝の思いを献げてきました。しかも、往年の名スプリンターを偲ばせる先生独特の速歩やサイクリングのお元気さには、今日の学生たちまで驚歎しているほどです。

永いあいだ教室に欠けることのなかった先生の折目正しい温容が今から私たちの団欒に見られなくなることは、何ともかけがえのない淋しさであり、まさに風雪に耐えて教室を守り続けた柱石を失う感に耐えませんが、幸い今後も名誉教授・非常勤のかたちでお出かけ下さることではあり、先生の変らぬご壮健を祈りつつ、末永く教室・学会をご指導お見守り下さるようお願い申しあげます。

私はまだ来任以来日浅く、先生に関して十分な言葉を尽しえませんが、を申訳なく存じますが、ここ数号の本誌に若い世代の寄稿が増えましたことにも、伸びゆく学会の羽ばたきをお聴き頂きたく、ここに学会一同の先生へのお名残り尽きない真情をこめて、遙かな幾春秋を越えてこられた先生のご功績に寄せる心ばかりのはなむけとさせていただきます。

先生、本当に有難うございました。

昭和57年3月

関西大学独逸文学会会長

山下 肇